
ある有名なお方の過去

朝昼夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある有名なお方の過去

【Nコード】

N4644M

【作者名】

朝昼夜

【あらすじ】

これはもしかしたら二次なのかもしれない。でもま、オチだけですからいいのかな。

「い、いやだああああ！ オレはもつとフサフサになりたい！ オレはもつとフサフサになりたい！」

いわゆる教会、ステンドガラスの麓で男は絶叫している。あわれなもので、髪の毛が一房しかなくて、風前の灯火である。だが、その一房もついに限界を迎えているらしく、男の頭から抜け落ちる寸前のその一房、神も仏もないのか、あるいは存在しているのか、ここが男にとつての人生の分かれ目と言っても過言ではないのだが、一体どんな結末を迎えるのだろうかみなさんはわかりますでしょうか、僕にはわかりません、なんて、男を見守っているうちに男の髪の毛の最後の一房が、ふさりと絨緞に落ちこちてしまいましたとさ。

「う、う、うわああああああああああああああ！」

男は全身を満遍なく使って悲しんだ。等身大の悲しみで悲しみを表現する男は、ステンドガラスの麓で絶叫を繰り返す。

「う、う、わああああああ！」

「う、わああああ！」

「う、わあ！」

元気が無くなってしまうと、地にひれ伏した。

「なんでオレの髪の毛がなくなるんだ。ちくしょう、もつとフサフサな人生を送りたかったよう！」

なんて泣き言を男は繰り返す。と、彼の目の前に一人の人間が現われた！

彼女はフサフサである。

「あなたに私の髪の毛を分けてあげても良いのですが、残念ながら、あなたのほかにも髪の毛を求めている人は数多くいるのです。ですから、あなたには、これだけしかあげられません！」

そう言つて女性は、男に一本だけ髪の毛を供給した。

男は嘆いた。

「そんなに需要があるというのか。ちくしょう、オレはそんなじよそこらの男たちとおんなじ程度の存在だっていうのか。…ま、ないよりはいいかな」

そう言っつて男は髪の毛を、はげた頭の天辺に突き刺した。

そうして彼は、波平になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4644m/>

ある有名なお方の過去

2010年10月9日21時35分発行